

10月18日(水)は、矢野先生による国語科の研究授業でした。本単元は、自分の好きな教科を2つ、聞き手に伝わるように話す順序を考え、紹介する学習でした。本時は、話す事柄の順序やまとまりを表す言葉を考え、それを用いて話すことを目標としていました。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

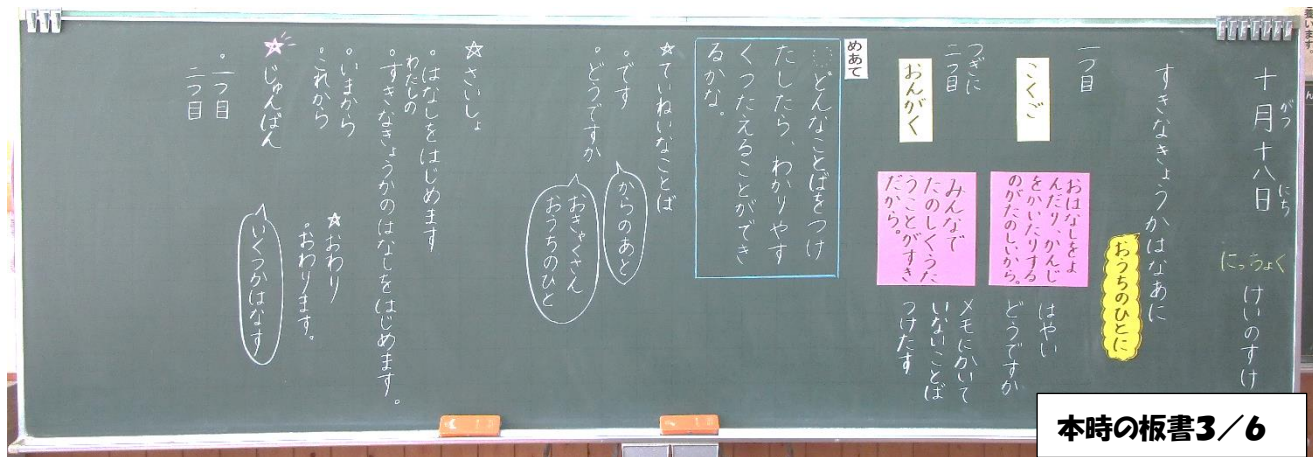
- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定
 - 学ぶ意欲、やる気をもって、子ども達は学習を進めていた。
 - 考える→全体共有→実践と繰り返し、表現を高めていこうとする学習活動となっていた。
 - ▼対話を通して深めるためにも、視点を示しておくよかった。1年生だからこそ、話す視点を明確にしてあげることが大切ではないか。
 - ▼教師の話すモデルだけで考えるだけでなく、子ども同士の対話からの気づきや子どもの話すモデルを取り上げ、全体で考えていけるとよかった。

- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫
 - 自分の好きな教科を参観日に家族に伝えるという相手意識がよかった。
 - 自分が話す様子を動画に撮り、比較して自己の変容に気付いたり、評価に活かそうとしたりするなど効果的なICTの活用の工夫がされていた。
 - ▼言葉の表現ではなく、話す速さに注目している子どもがいたため、めあてを焦点化する必要があったのではないか。

- 3 「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ
 - 子どもの発言を取り上げ、切り返しながら全体に広げていく授業づくりができています。
 - 子どもの発言をもとに、話すポイントを板書に整理してよかった。
 - ▼「まとまりを表す言葉(1つ目、2つ目)」については、子ども達の気づきから出てこなかったため、教師のグッドモデルや教科書教材を活用するとよかった。子どもの気づきから引き出していくところと、明示的指導を行うところを明確にしておくことが大切である。
 - ▼本時において、話すだけでなく、聞く側(相手意識)も意識させていきたい。

矢野先生の研究授業では、子ども達の発言を取り上げ、切り返しながら子ども達といっしょに授業をつくっていく様子がたくさん見られました。子ども主体を意識し、学習を進める中で明示的指導もしっかり行うこと、その際、教科書教材をどこで、どのように活用していくか考えていかなければならないと改めて思いました。また、ICTを自己の学びの変容に気付かせたり、評価につなげたり効果的な活用の1つの方法として提案していただきました。これからも、ICTを効果的に取り入れた授業づくりを行っていきましょう!

単元名 「わかりやすかつたえよう ぼく・わたしのすきなきょうか」 **全6時間**
学習材 「すきなきょうかはなにあに」(東京書籍) **1年2組 矢野 真衣 先生**
本時の目標：聞き手に話したいことが伝わるように、話す事柄の順序やまとまりを表す言葉について考え、話す練習をする。
本時における見方・考え方：友達との対話を通して、「何から話すかを決める」「一つずつ話す」「まとまりを表す言葉を使う」といった聞き手に伝わりやすいポイントをつかみ、話す事柄の順序を考えて話している。



本時の板書3/6



話し方の表現を加えて、話す内容を確認合っています。



好きな教科について、話し方の表現を入れて、みんなに聞いてもらっています。

矢野先生による授業の振り返り

授業実践を通して、子どもから引き出したい考えや子どもの発言について、できるだけ多くの想定をしておくことが大切だと分かりました。子どもの発言次第で授業が展開していくため、授業準備として具体的な子どもの姿で想定をしておく、授業で的確な問い返しや切り返し発問ができることを、改めて学ぶことができました。また、子ども同士の対話のときには、ペア活動やグループ活動に、教師が意図をもっておくことはもちろん、子どもにも視点を示し、毎回の活動の意図を子どもにも理解させていきたいと思えます。

